

# 日本映画史研究(3) —— 蒲田映画の世界〈1921~1936〉

大正9年(1920年)2月、すでに日本の演劇界に重きをなしていた松竹は、新しい大衆娯楽として高い人気を得ていた活動写真の製作・配給を発表し、松竹キネマ合名社を設立、小山内薫、ヘンリー小谷といった、海外の映画事情、技術に詳しい人材を招いて映画人の育成にあたらせると共に、6月には東京府下荏原郡蒲田村字新宿に《松竹キネマ蒲田撮影所》を開所しました。同年11月に第1作、「島の女」(ヘンリー小谷監督)を世に送り、のち続々と作品を生み出したこの蒲田撮影所は、栗島すみ子、田中絹代、鈴木伝明、岡田時彦らをはじめとする伝説的な大スターや映画史に大書される名優、名脇役を擁して文字通り日本映画の〈夢の工場〉となり、とりわけ大正13年に城戸四郎が撮影所長に就任してからは、世に言う《蒲田調》なる独自の映画スタイルを確立し、小市民劇、ナンセンス喜劇、メロドラマ、ラブロマンス等のジャンルに比類のない成果を見せるようになります。野村芳亭、牛原虚彦、島津保次郎らのパイオニアによって模索され、小津安二郎、五所平之助、成瀬巳喜男といった名監督の手で完成されたこの《蒲田調》は、のちの大船映画の基礎となっただけでなく、確実に日本映画史の一つの力強い底流を形成して、今日の映画人にも多大な影響を与え続けています。

フィルムセンターでは昭和56年以來、《日本映画史研究》と題して、映画会社別の特集上映を行なってきましたが、東映特集、東宝特集に続き、今回は松竹の蒲田映画特集を企画致しました。昨年が蒲田撮影所開所65周年にあたり、また本年は大船撮影所開所50周年にあたるという記念すべき時機に、松竹映画の源流たる蒲田映画の魅力を再発見しようとする試みで、小山内薫の指導する松竹キネマ研究所の第1作、「路上の靈魂」(1921年)から、本邦初のオール・トーキー、「マダムと女房」(1931年)を経て、閉所後の蒲田の空(から)スタジオで撮影された小津安二郎の最初のトーキー「一人息子」まで37本の秀作、佳作を集めています。特に清水宏・野村浩将両監督の作品には戦後初上映のものが多く、映画愛好家、研究者の方々には絶好の機会を提供することと思われまふ。

サイレント芸術の完成とトーキー映画への挑戦の渦中において、約1200本の映画群を創造した蒲田映画15年の歴史を回顧して頂きたく、広く皆様御鑑賞をお勧め致します  
1986年8月 フィルムセンター

■上映は竹橋の東京国立近代美術館講堂で行ないます。当会場へは地下鉄・東西線・竹橋駅下車、竹橋方面・毎日新聞社出口が便利です。

■上映は土曜日・日曜日の午後1時と3時から行ない、それぞれ入れ替え制です。但し、9月20日(土)、27日(土)、28日(日)の1回目は12時30分より、9月20日(土)、28日(日)の2回目は3時30分より上映致します

■開演は上映開始の30分前で、先着順にて定員270名に達し次第締め切ります。

■料金は、一般300円、学生200円、中学生以下小人は150円です。この料金は当日1回の上映にのみ有効です。

日 時	題 名	製作年	監 督	出 演 者
9月13日(土)1時	路上の靈魂(無声・84分)	1921年	村田 実	小山内薫、東郷是也(鈴木伝明)、沢村春子
3時	若き日(無声・103分)	1929年	小津安二郎	結城一朗、斎藤達雄、松井潤子、飯田蝶子
14日(日)1時	不壊の白珠(無声・100分)	1929年	清水 宏	八雲恵美子、高田稔、及川道子、新井淳
3時	朗かに歩め(無声・96分)	1930年	小津安二郎	高田稔、川崎弘子、松園延子、鈴木歌子
20日(土)12時30分	若者よなぜ泣くか(無声・161分)	1930年	牛原 虚彦	藤野秀夫、鈴木伝明、筑波雪子、田中絹代
3時30分	落第はしたけれど(無声・64分)	1930年	小津安二郎	斎藤達雄、田中絹代、青木富夫、横尾泥海男
21日(日)1時	麗 人(無声・118分)	1930年	島津保次郎	栗島すみ子、岩田祐吉、二葉かほる、高峰秀子
3時	その夜の妻(無声・65分)	1930年	小津安二郎	岡田時彦、八雲恵美子、市村美津子、山本冬郷
27日(土)12時30分	七つの海・前後編(無声・127分)	1931年/32年	清水 宏	川崎弘子、江川宇礼雄、岡譲二、結城一朗
3時	{ 腰弁頑張れ(無声・28分) マダムと女房(57分)	1931年	成瀬巳喜男	山口勇、浪花友子、加藤精一、明山静江
28日(日)12時30分	愛よ人類と共にあれ(無声・180分)	1931年	五所平之助	渡辺篤、田中絹代、伊達里子、横尾泥海男
3時30分	花嫁の寝言(57分)	1933年	五所平之助	小林十九二、田中絹代、斎藤達雄、大山健二
10月4日(土)1時	淑女と髯(無声・74分)	1931年	小津安二郎	岡田時彦、川崎弘子、飯田蝶子、伊達里子
3時	令嬢と与太者(無声・89分)	1931年	野村 浩将	磯野秋雄、阿部正三郎、三井秀男、井上雪子
5日(日)1時	上陸第一歩(88分)	1932年	島津保次郎	水谷八重子、岡譲二、奈良真養、河村黎吉
3時	生れてはみたけれど(無声・90分)	1932年	小津安二郎	斎藤達雄、吉川満子、菅原秀雄、突貫小僧
11日(土)1時	与太者と芸者(無声・96分)	1933年	野村 浩将	磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎、若水絹子
3時	伊豆の踊子(無声・93分)	1933年	五所平之助	田中絹代、大日方伝、小林十九二、若水絹子
12日(日)1時	非常線の女(無声・100分)	1933年	小津安二郎	田中絹代、岡譲二、水久保澄子、三井秀男
3時	晴 曇(無声・100分)	1933年	野村 芳亭	岡譲二、大日方伝、栗島すみ子、吉川満子
18日(土)1時	泣き濡れた春の女よ(96分)	1933年	清水 宏	大日方伝、岡田嘉子、小倉繁、大山健二
3時	港の日本娘(無声・71分)	1933年	清水 宏	及川道子、井上雪子、江川宇礼雄、沢蘭子
19日(日)1時	夜ごとの夢(無声・64分)	1933年	成瀬巳喜男	斎藤達雄、栗島すみ子、小島照子、吉川満子
3時	天龍下れば(サウンド版・69分)	1933年	野村 芳亭	川崎弘子、八雲恵美子、竹内良一、江川宇礼雄
■10月25日(土)、26日(日)は休館のため上映はありません。				
11月1日(土)1時	嬉しい頃(83分)	1933年	野村 浩将	江川宇礼雄、川崎弘子、坂本武、飯田蝶子
3時	大学の若旦那(サウンド版・85分)	1933年	清水 宏	藤井貢、武田春郎、坪内美子、水久保澄子
2日(日)1時	女学生と与太者(無声・82分)	1933年	野村 浩将	磯野秋雄、阿部正三郎、三井秀男、水久保澄子
3時	玄關番とお嬢さん(67分)	1934年	野村 浩将	水久保澄子、藤井貢、伏見信子、斎藤達雄
8日(土)1時	限りなき舗道(無声・87分)	1934年	成瀬巳喜男	忍節子、磯野秋雄、山内光、若葉信子
3時	隣の八重ちゃん(77分)	1934年	島津保次郎	岡田嘉子、逢初夢子、高杉早苗、大日方伝
9日(日)1時	与太者と花嫁(サウンド版・95分)	1934年	野村 浩将	磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎、大塚君代
3時	花婿の寝言(74分)	1935年	五所平之助	林長二郎、川崎弘子、小林十九二、忍節子
15日(土)1時	母の恋文(106分)	1935年	野村 浩将	小林十九二、山内光、高杉早苗、徳大寺伸
3時	東京の英雄(サウンド版・64分)	1935年	清水 宏	藤井貢、吉川満子、桑野通子、岩田祐吉
16日(日)1時	人生のお荷物(66分)	1935年	五所平之助	斎藤達雄、吉川満子、葉山正雄、坪内美子
3時	一人息子(82分)	1936年	小津安二郎	飯田蝶子、日守新一、葉山正雄、坪内美子

会場 東京国立近代美術館・講堂 千代田区北の丸公園3 地下鉄・竹橋(東西線)下車

お問い合わせ 東京国立近代美術館 フィルムセンター 中央区京橋3-7-6 ☎561-0823